

### 第3回 教育課程検証委員会議事録

平成25年10月21日

【委員長】 次第に沿って議事を進めますので、よろしくお願いいたします。

ここで、傍聴人の入室をいただきたいと思います。

【事務局】 傍聴人の方が今入室されますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】 本日は傍聴人の方がいらっしゃいますので、入室していただきました。

それでは、提出されている資料について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 それでは、資料2「教育課程検証のための意識調査」からみた二学期制の成果の課題（案）について、ご説明いたします。

まず、教育課程検証のための意識調査の結果からまとめました。自由記述について、ほとんどの調査から回答が得られ、4,000近く挙がっております。全てを示すことは難しいため、その中から大まかな意見として今回示させていただきました。

まず、二学期制の成果の概要といたしまして、「児童・生徒の学習意欲を持続させるために長期休業前に担任による面談を行うことで学習の目標をもたせることができた。また、長期休業中には個人の課題に合わせた補充学習を行い、長期休業後にはまとめのテストを行うなどの工夫をして学びの連続性を実現できるようになった」、「一つの学期が長くなることで、見通しをもった学習を行うことができ、児童と向き合う時間ができた」といった意見がありました。これは主に小学校の教員の意見として多かったものです。

また、自由記述の中から教員の意見として、「教師側にも児童側にも時間にゆとりができ、学力補充教室等で指導しやすい。それが一学期の評価に入るのがよい」、「評価の資料が多く、適正な判断ができる」、「長期休業前に面談や行事を組めるのはよい。学期末の事務処理がないので、授業や研修を実施できる」といった意見がありました。

保護者の意見といたしましては、主に「通知表での評価が多角的で、先生方がよく見てくれていると感じる」、「学習期間が長くなることはいいことだと思う。評価も2回で長期の間で判断してもらえていると思う」といった意見もありました。

逆に課題といたしましては、そこに四つほど示させていただきましたが、その中の二つ目、「二学期制のメリットについて周知し、開かれた学校づくりや特色ある学校づくり、学校評価の取組と併せて継続的に行う」、つまり、二学期制のメリットについての周知がこれ

からの課題ではないかという意見もあります。また、「中学校において、定期考査の回数が減る事による学習意欲の低下や試験範囲の拡大による生徒の負担に対する保護者の不安がある」、特に保護者の中では進路選択の場面で不安の声が上がっています。

具体的に教員の意見で、二学期制の課題といたしまして、「長期休業前に評価をし、休み中に復習をする意欲をもたせたい」や「部活動の大会が他の区市と合わない」、「一学期、二学期のけじめがつけられない」といった意見もありました。さらに教員の中には、前回の検証委員会でも話が挙がりましたように、上級学校への進学指導の問題が多く挙げられています。

保護者の意見といたしましても、「二学期制は高校受験を控えて中学三年生にとっては不利な制度のように感じる」といった意見が多くありました。

また、学校評議員の方の意見といたしまして、その裏面、資料2の最後のページになりますが、「中学校では定期テストの前に子供たちの勉強する範囲が広くて大変である」といった意見ですとか、「夏休みが入ってしまう為、学びの連続性が保たれるとは思わない。休み前の面談で子供の様子が分かるとのことだが、実際に面談があるのは6月終わりである」といった意見もありました。

「二学期制の成果と課題」の成果についての概要、課題についての概要、そして自由記述の中から抜粋して示させていただきました。二学期制については以上です。

【委員長】 ただいまの説明について質問はございますでしょうか。よろしいですか。

では、続きまして、土曜授業導入の成果と課題について資料が提出されていますので、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 「教育課程検証のための意識調査」からみた土曜授業導入の成果と課題(案)について説明いたします。

二学期制と同じく、自由意見の大まかなものとして報告いたします。

土曜授業導入の成果の概要といたしましては、授業の公開が原則となっておりますので、保護者や地域住民の参観の機会が増え、開かれた学校づくりへとつながりました。道徳授業地区公開講座やセーフティ教室を行ったり、保護者や地域住民等をゲストティーチャーに招いての授業を充実したりすることができました。年間授業時数25時間程度の授業時数の確保ができました。

意識調査の結果です。教員の意見といたしまして、「土曜日の学校公開には保護者や地域の参加者が多く、ニーズを感じる」、「子供も参観を楽しみにしている様子である」という

ことが挙がっております。土曜日に授業を実施することで、先ほどの成果の概要にもございましたように、保護者や地域の方に参観していただき、ゲストティーチャーとして参加してもらえらる機会が増え、授業が多様化したことがありました。

保護者の意見といたしまして、土曜授業は毎週でもよいのではないか、日本は学力低下しているのもっと学校での授業時数を増やしてほしい、練馬区は冷房が使えるので夏休みも短縮できるのではないかとといったご意見や、土曜日に参観することで学校の様子を知ることができた。これは、平日は仕事があり参観できないことから意見として挙がってきているかと思えます。先生やほかの保護者との情報交換ができる場ともなっているようでございます。行事やPTA活動が平日にあった場合には休暇を充てているので、授業公開が土曜日になったことで、参観の機会が増えて助かっているという意見もございました。

学校評議員の意見といたしまして、共働き家庭が増えている中、学童クラブに入れない学年の子供たちが、土曜日の学校に行かれるのはよいことであるというご意見をいただいております。ただ、家庭の事情を考えると、土曜授業がある子と土日が休日である子とを比べたときに、家庭にいる子よりも学校で充実した日々を送っている子供のほうが時間の使い方が上手である。土曜授業で生活リズムが整っているのではないかとのご意見もいただいております。「いつでも見られる」というのは「いつも見ない」ということにつながってしまうので、月1回程度土曜授業を実施しているのが妥当ではないかという、回数についてのご意見もいただいております。保護者が働いている子供の居場所づくり、先ほどの学童クラブのこともあると思いますが、居心地のよい学校がその受け皿になっていれば心強いという意見もいただいております。防災教育等について、地域が主催しているのを土曜授業の午後に充てれば参加してもらいやすくなるのではないかと、授業の一環として参加するきっかけになればいいのではないかとのご意見もございました。

土曜授業導入の課題の概要でございます。土曜日に授業を実施することで、児童・生徒、教員の負担感が増すという意見がございました。土曜日に授業があることで、地域の主催する行事、体験活動に参加しづらくなるという現実もあるようでございます。中学校の部活動においては、近隣区市との練習試合等の調整が、土曜日は難しくなっているというご意見もございました。

意識調査の結果からは、教員の意見といたしまして、第2土曜日に固定する必要はないのではないかと、各学校で決められるようにしてほしいというご意見、ハッピーマンデーを利用して三連休で旅行する家族もいるので欠席する場合がある、三連休前の土曜授業はな

くしたほうがいいのではないかと、土曜日に授業を実施した翌月曜日は子供に疲れが見られ、眠そうに登校してきているという現状をお書きいただいた先生方もいらっしゃいました。もうちょっと柔軟に土曜授業を行えないかというのが全体の課題としての意見でございました。

保護者の意見といたしましては、やはり土日には家族で遊びに行かれないので、三連休の土曜授業を止めてほしいという意見がございました。土曜日についてはスクールゾーンが確保されないので、登下校が心配だという声もいただいております。保護者から見ても、土曜授業があった翌月曜日は子供の身体面がきつそうであるというご意見や、土曜日の習い事に支障があること、部活動にもっと集中させたいなどというご意見もいただいております。土曜日に授業をしないと、本当に学力が足りないのかというご意見もありました。土曜授業が月1回ではなくて毎週あったほうがいいのではないかとご意見もいただいております。土曜日は給食も出して4時間目まで実施してほしいというお声もありました。

学校評議員の意見といたしまして、土曜授業が導入されたことで、保護者にとっては参観できるというところでよいかもしれないけれども、児童や先生への負担感を感じていらっしゃる意見がありました。児童のゆとりはあるかもしれませんが、生徒や教員のゆとりにつながっているとは思わない。土曜授業を行ったほうがよいと思うが、教員のサポートが何らかの方法で必要ではないかというご意見もいただいております。公開のために土曜授業を毎月実施する必要はないというご意見や、年8回程度ではあまり変化が感じられないので、月2回程度必要ではないかというご意見もいただきました。

その他の意見といたしまして、都内で統一されているほうがよいのではないかと、教員の家族に負担がかかっているというご意見や、授業ではなくて行事を実施することでもっと参加型にしてほしいということ、土曜日は企業や地域などによる授業や行事を実施してほしいという声がありました。

以上でございます。

【委員長】 ありがとうございます。ただいまの説明について、何かご質問はございますか。

私から1点確認したいのですが、土曜授業の課題の概要のところ、「土曜日はスクールゾーンが確保されず、登校が心配である」というのがありましたけれども、これは事実ですか。

お願いします。

【委員】 土曜授業が始まる前に3警察の交通安全担当と協議をさせていただきました。その中でやはり、土曜日についてはスクールゾーンから除外することになっていまして、それを解除することについては、またさらに地域の方の合意も必要になりますし、看板のかけかえも必要になります。現在8回やっていますけれども、それが恒久的なのかどうか、その点を踏まえながらでないとなかなか法規制については厳しいという話はいただいています。

そうは言っても、土曜日に授業は結構行われており、PTAからも声があるということで、この前は交通安全課と会議がありまして、話を聞いたところ、やはり警察のほうにもそういった声が入っているので、その規制の在り方について具体的に検討しているところだという話は聞いております。現段階では規制の部分まで入るのは、ちょっとまだ検討に時間がかかるのかなといった状況でございます。

【委員長】 ありがとうございます。

他に何かございますか。よろしいですか。あればまた後で折々に出してください。

それではまず、二学期制の成果と課題および今後の方向性についての議事を進めてまいりたいと思います。先ほど事務局から説明がありました資料2の教育課程検証のための意識調査の自由意見および二学期制導入の成果と課題を参考にご意見をお願いします。

なお、議論の方向性として、二学期制を継続した場合のメリット・デメリット、あるいは三学期制に戻した場合のメリット・デメリットという視点でお話をいただくとありがたいと思います。今後の方向性ということが今日の一番の論点になりますので、その辺を少し明らかにして、それぞれ委員の方のご意見、あるいは職場、機関等のご意見等でもちろん結構ですので、お出しただけたらと思います。よろしくお願いします。

どうでしょうか、論点を少し絞る意味で、先に、まず小学校の皆さんからご意見をいただき、続いて中学校の方からと行きたいと思いますが、よろしいですか。

では、小学校の皆さん、いかがでしょうか。前回、データをもとにいろいろとご意見を出していただいて、ある程度論点は浮かび上がってきているとは思うのですが、また今回、それぞれの自由記述をご覧いただきながらご意見をいただければと思います。

いかがですか。教員の意見として何点か出ていますけれども。あるいは、保護者の皆さんから、教員の意見についての意見でも構いません。

【委員】 前回は二学期制の課題というところで意見が出てきていたと思うのですけれども、実際やはり、この「学びの連続性」というのがきちっと理解されずにここまで来たというのが非常に大きな要素だと思うのです。

その中で、校長会でもこの件に関していろいろ話を伺っているのですけれども、賛否両論です。と言いますのも、小学校は5年間二学期制をやってきています。ある意味定着しかかっているのです。ですから、リズムができています。評価に対しても、それから行事の組み方にしても、教育課程、評価といったものがある程度でき上がってきているところで、何を今さら三学期制だという思いがある。ただし、正直に申し上げて、はっきりとメリットかと言える部分は感じないのです。

ただ、これをもし三学期制に戻すとなったら、評価の作業上の問題になるかと思えますけれども、教員負担として、今、時間が非常にない状況で行っている。それから、今、区が進めている校務支援システム。これは、実際にパソコンで作業をしていくということにおいてのメリットは高いのですが、学校に拘束されるというデメリットがあるのです。ということは、そうした評価をつける時間をどうやって確保していくのだと。つまり、短縮授業をまた復活させるのか。そうやってきたときに、今でさえ時間数が確保できていないという意見も出てくるくらいですから、この削った分を今度はどこにしわ寄せをするのか。これはまた土曜授業とも組み合わせさせてくるのかもしれませんが、そうすると、二学期制から三学期制の問題は、全てをまた巻き込んでいろいろ考えていかなければならないだろうと。こういうことを今やる必要性が本当にあるのかというのが、小学校側の意見です。

私は個人としては、今回出された資料を見ていて、やはり中学校と小学校において二学期制の受けとめが随分違うなど。これは教員も保護者も同じだと思っています。ですから、このことはもう少し踏み込んで、この間も出ていました、もし二学期制を変えるとすれば小中共通であるべきだと。本当にそうしなければならないのかどうかということも含めて議論すべきではないかと。ですから、これは本当に短時間の中で答えを出して、方向性をつけていくのが非常に難しい。それが今、私の意見です。

以上です。

【委員長】 ありがとうございました。

いかがでしょうか。とりあえず、意見を出していただくということでお願いします。

【委員】 何か本当に難しいのですが、予想どおりと言えれば予想どおり、教員側の意

見と保護者側の意見がこんな感じで出てくるのかという思いでありましたが、やはり集計上もそういう感じで出てきたので。

私も今おっしゃったように、二学期制のメリットというのはほとんど感じられない。ただ、行事とか、特に研究授業というのが学校としてはあるのですけれども、7月に研究授業を組むとか12月に組むとか、あるいは社会科見学のような行事を7月に組んだり12月に組んだりということが、今まで三学期制では学期末だったところが二学期制では学期末ではなくなったので、12月24日に校外学習に行くなんてことも可能にはなっているので、そういう部分は、小学校としてはある意味メリットと感じて、今、取り組んでいるところです。

これが逆に三学期制に戻るとそういうことがまたできなくなってしまう。学期末が増えるということは、成績の作業が増えることになります。教員側からすると事務的な負担が非常に増えていくと思っていますので、はっきりしたことは言えませんが、悩んでいるような状況です。

【委員長】      ありがとうございます。

【委員】      二学期制になって、私自身は、学校現場としてメリットはあったと感じております。子供たちへの指導と評価というものの積み重ねがやはり大きかったと思います。

中学校もそうですが、小学校は様々な教科がありますけれども、例えば年間に50時間しかない教科など、三学期制の1、2、3月で評価するのはあまりにも時間数が少ない。そういったものを適正に評価するには、この二学期制は非常によかったと思います。

また、子供たちからの視点でいきますと、夏休み前、本校は7月ですけれども、子供も含めて三者で面談をして、7月までの学習についてよかったところ、それからもうちょっと頑張ったほうがいいところをしっかりと確認して長期休業を迎えて、9月、またさらに補充をしていくといったこと、それらについて、10月、1学期の終わりに評価がもらえることは非常によかったのではないかと思います。

学校として、三学期制から二学期制に変わって、どのようにどこを具体的に変えたのか、どういったことをよい点として捉えているのか、また、子供たちというか、保護者、地域の方にどういうことをご協力いただいたり理解していただいたりしなければならないのかといったことを、もっともっと学校として伝えるべきではなかったか、そのところが少し弱かったのかなと感じています。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

【委員】 委員会でもお話ししたとおり、小学校で言うと、教職員の方と保護者の意見が、この意識調査で言いますと、非常に乖離している。実際、私も継続するのが好ましいのか、継続しないのがいいのか、非常に答えが出しづらい状況であります。

今日の資料から見ますと、やはり小学校の教職員は、学びの連続性や児童と向き合う時間、あるいはきめ細かい指導ができる等々、成果があるという話でございます。なかなか定性的な評価というのは、主観的なものでございますので、いい悪いと言いづらいというのが私の意見であって、ここは定量的な評価で見ることによって、この成果が具体的に評価されるのではないかと考えています。

先ほどおっしゃったように、5年経過しているということでございますので、大分経ってしまったわけですが、三学期制のときの児童の学力と、二学期制になったときの学力の比較をして、どうだったのか、こういう定量性の評価システムがあった方が分かりやすいと思っております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

【委員】 私も、個人的な意見としていい悪いはなかなか言いづらいところなのですが、印象としましては、やはり先生方のほうで、子供たちと向き合う余裕が少しでも生まれているという思いで子供たちに向き合っていたのであれば、それはそれで子供たちに、心理面のほうで多分メリットをいただいているという気もします。

ただ、現状として、中学校の方が二学期制だと不都合が多いという話を結構お聞きしましたけど、それをお聞きすると、やはり三学期制の方が目に見えた通知表がもらえる回数が多いわけですから、保護者としても分かりやすかったりすると思います。今、委員がおっしゃいましたように、三学期制のころの学力と今の子供たちの学力の差に少しでも違いがあるのであれば、より学力が上がっている方が多分、二学期なり三学期なり、いいのかなという思いもします。それから、学校で面談をしっかりといただいているという話もあるのですが、うちの学校ですと、先生が面談以外でもとって、いつでも何でも聞いてきてくださいということをいつも保護者に向かって発信してくださっていますので、そういった意味では、面談に限らず何でも聞いてきてくださいという気持ちを示していただいていることによって、すごく安心感があつたりします。何ていうのでしょうか、紙で評価を出すだけではなく、言葉の評価をきちっといただける状況であるのであれば、二学期制



で先生方に時間にゆとりがあるのはとてもいいことだと思っております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

一通りお話しいただいたのですけれども、何か付け足すようなことはおありですか。先生方、よろしいですか。あったらまた後で。

じゃ、中学校の先生方、保護者の皆さんにお聞きしたいのですけれども、順番はどうしましょうか。どなたか手を挙げていただいても結構ですし、よろしいですか。

【委員】 二学期制、三学期制のメリット・デメリットをてんびんにかけるのが非常に難しい状況だと思うのです。今現在考えてみて、メリットのことを考えれば、評価のスパンが長くなることで、ここにも資料として載っていますけれども、より正確な評価はできると思います。要するに、スパンが長くなることで子供たちの様々な学習成果を資料として取り上げることができると思いますので、三学期制よりは二期制のほうが当然正確なデータはそろいやすくだろうと。中学校の場合には、教科によって週1時間の教科もありますので、授業時数が極端に少ない教科も存在するわけです。そうすると、やはり期間が増えることで、授業時数の少ない教科であっても正確なものが出せると思います。

それから、実際的に、長期休業前の時間短縮を三学期制のときにはやっていて、それを何に教員が活用していたかという、子供たちの評価をするための時間を確保していたわけです。ところが、二学期制になったことで、その時間を授業に充てているわけです。夏休み前、長期休業前には評価を出すことがないわけなのですけれども、その分授業がそのままでできるわけですが、二学期制の切り替えの時期に当然短縮授業はやっていないわけで、そのまま授業を継続した中で、膨大な量の資料の評価を整理して成績を出していかなくてははいけない。そうすることで教員の負担感はかなり大きいものがあるのが現実問題です。ですので、夜9時、10時、11時まで残って仕事をせざるを得なくなってくるのは現状だと思います。特に部活動を指導している教員にとってみれば、放課後は部活動で子供たちと向き合っている場面ですので、仕事をする時間は7時以降になってくるのが現状だと思います。

それから、学習指導要領で示されている教科時数が35時間、実際的に増えたわけです。そういう意味でも二学期制をすることで授業時数を確保するという、実質的な時間確保というのは当然二学期制のほうがメリットがあると思うわけです。ですから、本当に一長一短あって、現実問題としてどちらのほうがいいのかというのはなかなか難しい部分です。

先ほどから話題に出ているように、もう5年が経過して、リズム的には二学期制の方に移行していると思いますので、課題解決は、二学期制の中でどう今の課題を解決していくのかというところを取り上げたほうが前向きな姿勢だと感じています。

【委員長】 ありがとうございます。

それでは、お願いします。

【委員】 このアンケートの集計を見て、やはり、教育課程の編成上ということにおいてはメリットが多く見られると思います。実際に日程を組むときであるとか、大変に便利なシステムだと感じております。

ただ、生徒にとってどうなのかということですが、一つは、今日、本校は2学期の始業式を迎えたわけですがけれども、先週の金曜日に1学期の終業式を迎え、やはり1学期を終えて、2学期、さあ、頑張るぞというけじめというところが、なかなか子供の成長過程において、中学生でその切りかえはどうなのかということは強く感じております。

また、中学校の場合、出口の論があって、3年生をどうやって外に出すかといったときに、やはり進路の問題がどうしてもかかわってきてしまいます。学びの連続性で、夏休み前のある程度の評価と面接ということがあるわけですがけれども、評価を出さざるを得ない状況にあって、この評価というのは何なのかということです。子供にとって評価は出すのですけれども、重みがないといいますか、途中経過であるというところで、一つは問題があるのかと思います。

それとともに、二学期制で、1、2年生はそうでもないのですけれども、やはり3年生になると、夏休み前に評価を出して、10月に評価を出して、そして12月にも評価を出すという、余計に負担が増えているのも現状ではないかと思います。

つまり、中学校においては、3年生の問題をどう解決するかというところが、この焦点にあると感じております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。 お願いします。

【委員】 私もこの資料を見せてもらっていろいろ考えたのですが、小学校にとっては、二学期制は、余裕をもって先生方も子供と向き合う時間がとれていることがわかったのですが、中学生は、今おっしゃったように、入試、上級学校に行くということがあって、そちらのシステムが変わらない限り、3年生にとってはとても厳しい問題だと思います。

10月の中間に通知表をもらって、今度は12月に成績一覧表ができるのですが、10

月の中間に成績をもらって、次、頑張ろうと思っても、もう頑張る期間は1か月ないので、1か月の中で、例えば今言ったように、週1時間しかない授業はどういうふうに頑張れば成績が上がるのかと言っても、上がらないのです。子供たちには頑張れということは言うのですが、実際は頑張れない、頑張っても成果が出ないというのがとても残念でかいそうだとすることがあるので、中学生、特に中3にとっては三学期制のほうが、自分たちの目標に向けた進路、上級学校に行く気持ちがついていくと思います。

それからこの意見にもありましたが、特に保護者の方たちは三学期制を経験している方ばかりなので、二期制についてのよさが十分に伝わっていないこともあって、保護者の方たちからいろいろなご意見はいただいているというのが現状です。

先ほど委員がおっしゃったように、中学校と小学校が本当はそろったほうがいいのかもしれないけれども、無理やりそろえる必要があるのかというのは私の感想です。

【委員長】      ありがとうございました。

【委員】      両方とも三学期制にしようという意見はあまり出ていないようなので、これはもう、二学期制をやりつつ、中学校はどう工夫していくかとするのか、中学校は三学期制だけど、小学校は二学期制にしていくのかみたいな選択肢かと自分は思っています。

ただ、すごく大変な現場ですから、実際私は教えているし、成績も出さなければいけないし、学年のこともいろいろありますから本当に大変なのです。リズムというか、何だかんだ言いながら二学期制をやっているの、ここをまた三学期制にするというのは、自分は教務主任なんですけど、まずカリキュラムを組むのはすごいパワーが必要なもので、そこのところの先を見据えて、これからどれくらいのスパンで改善したやり方をつなげていくかということもあつつつ、要するに、先を見越しながらも、何が一番子供たちにとっていいのかを考えなければいけないというのはすごいことで、さっきどなたかがおっしゃったけれど、そんなにもものすごく急いで結論を出すのはすごく大変だと思います。ただ、5年もやってきたと皆さんおっしゃっているので、何か中間で反省をして、改善せざるを得ない時期に来ているのだと思います。非常にそういうことで、自分自身としては、どうしたものだろうと考えます。

それから、一番最初にこの会に来たときに発言したのですけれども、結局練馬区がどうこう言っている、高校のシステムが、東京都なのか日本なのかわかりませんが、そのシステムがどうなるのかということも見ないと、これでうちがまた、三学期制と二学期制を合体して小中やっていますみたいにやっていたけれど、東京都のシステムが、いや、こう

いうふうにしますとかであるともたがちゃがちゃとなると思うので、その辺も見きわめてちゃんと長いスパンで考えないと、おろおろしているみたいにならぬ流れになってしまうのはすごく嫌だと思ひます。ある程度のことを考へて、私達はちゃんと見ていかなければいけないとすごく思ひます。

【委員長】 ありがとうございます。また後ほど触れたいと思ひます。

それでは、お願いします。

【委員】 私自体が中学校籍ですので、ほかの中学校の先生方のお話を聞くとすごく納得する部分も多いし、中学校の保護者の方の意見と小学校の方の意見が非常に大きく違ひのもうなずけます。今、意見の中で、中学校は三学期制で、小学校は二学期制という方向性も一つの選択肢として考へられないことはないかもしれないのですけれども、小中一貫教育校で考へますと、例えば、7年生以上が三学期制で、1年生から6年生が二学期制になりますと、学校全体の行事とかを組むのが非常に厳しくなつてきます。今、練馬区では小中一貫教育、小中連携教育を進めていますので、そこで小学校と中学校が大きく違ひてしまひますとその調整も大変になつてくるということを感じていました。この問題、例えば授業時数の確保でしたらば、土曜授業とかいろんな部分とかかわつてくるので、総合的に考へていかななくてはいけないと思ひました。

それからもう一つが、他の地方公共団体の先行事例や取組の中で、二学期制から三学期制に戻した自治体はあるのか、そこでどのような課題があるのか、こういうメリットがあつたということを見てみるのもいいと思ひました。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

一通り意見をいただきましたけど、よろしいですか。

【委員】 皆様の意見を聞いて思つたことですが、まず、アンケートをとつているところは、結局三学期制を経験されている方ばかりですね。子供たちにとっては、中学校の間は全部二学期制で経験をしてくると思ひます。その中で、子供は結局どのように感じているのだろうかと思ひました。

先生方の話をお聞きしますと、二学期制の方がゆとりをもって接することができる、きめ細やかな指導とか評価ができる、長いスパンで子供の成績をつけることができる。先日、私ごとで申しわけないのですが、娘がテストの日に具合が悪くなりまして、ほとんど書けない状況でテストを終えました。中学校3年生、一番大事な試験でした。しかし、長い1

学期があったおかげで、評価の方は何とかぎりぎりの線でいけたという経験があるのです。そういった部分を見るとゆとりが、長い期間、前半はかなり頑張って後半がそういう状態だったのですけれども、そういうふうにつけていただける経験もさせていただいたという部分では、二学期制というのは、そういった面ではメリットがあると感じました。

ただ、3年生ということで、夏休みの間に高校を見学しに行かなければならない、そのときの評価が必要だということで、先生方にはそれを出していただかなければいけない部分があります。中学校3年生の先生方にはかなりの負担があると感じています。

高校になりますと三学期制がほとんどだと思います。そういった部分はどのようなふうを考えていらっしゃるのかという疑問はずっともっています。

それから、もう一つ思っていたのですが……、すいません、思い出したら言います。

【委員長】　　じゃ、また後で出してください。

【委員】　　ちょっといいですか。

【委員長】　　はい、どうぞ。

【委員】　　すいません。誤解があるといけないので付け加えておきますが、現在二学期制の中で小学校も中学校もやっておりますので、特に中学生の3年生に絡む評価については、夏休み前に評価をしているとか評価をしなければならないとか、3年生の先生方が生徒の評価をするという表現も若干出ている感じがするのですが、基本的には評価はしていないのです。二学期制ですので評価はするべきじゃないのです。

【委員長】　　それは評価ではなく、評定ですね。

【委員】　　はい、評価・評定ということはなかなか難しい。ですので、夏休み前の段階で子供たちの学習の成果を家庭に伝えるためにはどのような手だてがあるのかというところで、これは各学校に伝達の仕方は任せられている部分があるのです。

ただ、学校に任せられているところで、保護者間等で、あそこの学校は結構詳しく出ているとか、うちの学校はあまり詳しく出ていないとかというようなお言葉をいただいている部分はあると思いますけれども、評価・評定のことに関しては、そういうふうに理解していただけるとありがたいと思います。

【委員長】　　ありがとうございました。

他に何か付け加えることはございますか。

【委員】　　すいません、思い出しました。

【委員長】　　はい。

【委員】 1学期と2学期の間が10月の半ばになっていると思うのですが、例えば、子供たちが1学期と2学期の区切りが分かりづらいという部分であれば、10月1日は衣がえですか。大体そのように私は覚えています、そういった部分で1学期、2学期を区切ることは考えられないのでしょうかということの一つ付け加えさせていただきます。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

先ほど、委員から、少し先を見たスパンの話が出たのですけれども、ご案内のように、大体教育課程はほぼ10年に1回改訂されています。したがって、前回の改訂に合わせてこの二学期制も確か順次取り組んでいったように私は記憶しているのですが、要するに、システムを大きく変えるわけですから、通常どおりの教育課程をやっているところに、ほんとそこだけ変えるのはかなり無理があるように思うのですが、その辺は事務局の方ではどんなふうにとらえていらっしゃるのでしょうか。

事務局。

【事務局】 事務局としては、果たして、二学期制から大きく本当に三学期制に変えていくのかどうかというところは、この検証委員会の議論を踏まえて、今後、教育委員会で協議を進めていくということで考えております。

ただ、万が一、大きくシステムが変わるといった場合には、例えば来年度からとか再来年度とかいう短いスパンで変えていくのは無理があるのではないかという感じももっております。

以上です。

【委員長】 大まかな説明ですけど、委員、よろしいですか。あなたの責任にするわけじゃないんですけど、そんな説明がありましたので。

それから、この辺はどうですか。他地区で、二学期制から三学期制に戻した事例で何かということは、何か今、情報なりデータはありますか。

お願いします。

【事務局】 23区内で二学期制から三学期制に戻したという事例はございません。今後検討するという区はあるようではございますけれども、そういう意味では、23区内では一番練馬区が先行しているという状況はございます。

それから、市部で三学期制に戻すという動き等は実際にはございます。また、全国で見ますと、二学期制を三学期制に戻していった事例も若干ございますので、そこがどのよう

な状況かというところは、また、事務局としてもしっかりと調査をしていきたいと思っております。

【委員長】 ありがとうございます。

一通りお話をいただいたわけですが、さらに加えて、あるいは漏れていたことなど、もう少しということがあればお出しただきたいと思いますが、いかがですか。あるいは、小学校、中学校それぞれお話しいただきましたので、連携とか一貫という視点からでも結構ですが。よろしいですか。

じゃ、私の方から皆さんにご意見をいただきたいのですが、いただいているご意見の中には、「学びの連続性」のことなども含めて、二学期制の趣旨等の説明がどうも不足しているのではないかということが読み取れるのですけれども、この辺はいかがでしょう。学校としてはかなり繰り返し説明されているのでしょうか。

というのは、私があんまりしゃべり過ぎてはいけないのですけれども、総合的な学習の時間が始まった時に、こういう趣旨でこういう新しい教育内容、方法が入りますという説明をしたのですけれども、私は大失敗したなと思ったのは、最初に1回説明したらもう分かっていたらいいだろうという気持ちで、ところが実際には全然分かっていたいかなかったのが分かって、その後、繰り返し繰り返し説明をしていった記憶があるのです。

この二学期制も保護者にとっては、「学びの連続性」と言われても、学習活動の評価が充実すると言われても何のことか分からないでしょうし、多分そういうこともあるのかと思います。そういう意味で、新しい保護者が増えていくわけですから、繰り返し繰り返し、5年経ってもいまだに説明していかないといけないと思うのです。その辺は、今、皆さん振り返ってみると、どうでしょうか。

【委員】 今、委員長がおっしゃったとおりだと私も思います。この5年間の中で二学期制にかかわって、どれだけメリットになる部分を我々教員が理解して保護者に訴えてきたか。おそらく形から入って、形が定着しているのではないかという認識だけでここまで来たのが現状だろうと思います。

小学校は5年前、中学校は6年前になるのです。その6年前に二学期制を導入するに当たって、私たちは、こういった形でこれまでの三学期制を見直すという検証委員会をやっていないのです。二学期制のよさだけが独断的におろされてきて、そこで説明されたうたい文句、失礼ですが、「学びの連続性」というのはそこで出てきたのです。それを我々が理解しないまま繰り返し続けてきたことと、その「学びの連続性」という言葉の中に、先ほ

ど申し上げたような評価だとか行事の在り方を織り込んでいったのが現状ではなかったか。だから、当然のごとく形のままここまで来てしまって、今、ようやく形が定着しつつあるわけだから、もしメリットをこれから見付けていこうとするならば、今ある枠の中でメリットを明確にする方策を今度は出していくべきだろうと思います。

私は、ここに出てきている、今までやってきた二学期制を検証する意図は、やはり何らかの声でデメリットが声高に言われている部分があって、だから検証しなければならない状況になっているのだろうと思います。もし今後の方向性を考えていく場合、このデメリットの方にウエイトを置いて改善していくのだというのであればそういう方向で検証すべきだろうし、先ほど出ているように、二学期制のメリットをもっと具体化すべきではないかというのであればメリットにウエイトを置いて検証すべきだろうし、両方てんびんにかけて方向性を見出すのは非常に難しいのではないかと思います。

現実、小学校校長会で結論は出ていないのです。言わない、言えないのです。三学期制がいい、二学期制がいいと。これが現状です。私としては、検証委員会というのはある意味議決的に進められる委員会ではないので、あくまでも検証委員会だから、もしそれを声に出していききたいのだったら小学校校長会の役員の方で意見を集約して、小学校校長会として意見を出していく。そういう機関もあるだろうからという話を私はしているのです。

ですから、ここでもし方向性を決めていくというのであれば、メリットの方向で行くのか、デメリットの方向で行くのか、それをまず洗うほうが必要なのではないかなと思っています。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

他の方はいかがでしょうか。

【委員】 今お話があったように、中学校校長会のほうでも、この検証委員会の内容について、それから、今こういうことが話し合われていますということについては、報告はしているわけですが、34校の中学校の校長の意見を集約する機会はまだ1回もありません。ただ、もしそういう意見を聞き取ったとしたとしても、賛否両論、50%・50%になっていく可能性は非常に高いなど、私自身の今の感覚ですけれども、思うところはあります。

本当にご指摘のとおり、これから先、どういう方向でこの二学期制、三学期制ということを取り組んでいくのかという感覚からすれば、今現在、小学校は5年間、中学校におい



ては6年間実施しているわけですので、その中で三学期制に戻すよりも、むしろデメリットの部分をいかにプラスのところに転じていくかということを論議したほうが前向きなのだろうと私は個人的には思っております。

【委員長】 ありがとうございます。

他の方はいかがでしょうか。

先ほど、意見の中で小学校と中学校が違うということも一つの考えとして出ているわけです。それから、これはちょっとお伺いしたいのですけれども、中学校の中で、1、2年生と3年生が違うという考え方はとれるのでしょうか。

【委員】 学期制がですか。

【委員長】 ええ。ある意味では通知表になるかもしれませんが。

【委員】 通知表を効果的に保護者と子供が見てこれからのことを考えるというのを考えるのであれば、やはり夏休み前にもらって、長い夏休みにどう変えていくみたいな方が、中学生としては、保護者も親も取り組みやすいと思います。

事務処理的には、中学校3年生の事務処理はすごく大変なのです。何回もテストをやっ、て、さっき評価・評定は出さないとおっしゃったけど、何かそれが言えそうなものにするためには、他に定期考査をしたり、本当だったら中間考査だから実技4教科はやらないのですけど、そこを3年生だけは実技4教科も筆記テストを入れたりとか、現実、テストからもそういうふうにはせざるを得ないのです。それをしないと、今度は逆に資料がないと言って保護者も子供も訴えてきます。先生、それじゃ、もう選べませんと。それは重々わかるから。

私たちは、幾ら評価・評定はしない学期だと言っても、一応それが何か言える資料を集めるために定期考査をしたりもするのです。そういうことを考えると、事務処理としては中学校3年生が一番、二学期制はすごく大変です。だけど、教科の力をよりよく自分で伸ばしていくのをどういうふうにアプローチしていくかということは、あの四十何日の長い夏休みをどう利用できるか、子供にアピールできるかというのは、すごく中学校で大切なことなのです。

だから、それを考えると、1、2年生だってやっぱり意味のあることはあるとは思いますが、ですけども。

【委員長】 他にいかがでしょうか。

それでは、時間が過ぎてきましたので、もう少し議論を深めたい部分もないわけではな

いのですが、先に進めて、土曜授業のことでご意見をいただきたいと思います。

土曜授業の導入の成果と課題について、これは先ほど意見も出ましたけれども、二学期制とも、あるいは長期休業日の在り方とも関連してまいりますので、改めてまたご意見をいただけたらと思います。

議論の方向性では、二学期制と同様に、現在2年目に入っている土曜授業を継続した場合のメリット・デメリット、あるいは夏季休業を短縮した場合のメリット・デメリットという視点で、先ほどのようにお話しいただけるとありがたいと思います。

あるいは、現在8回ですね。この回数についても、もしご意見があれば出していただければと思います。

【委員】 土曜授業をつくるに当たって昨年度かかわったものですから、この中身について触れながらお話をしたいと思います。

まず、最初に出たのが、夏休みの短縮というのが、もう3年になりますね、3年前にあったわけなのですが、この問題に関して一応いろいろあったわけです。要するに、教職員の研修だとか、あるいは学力補充だ、水泳指導だとかを入れたときに、夏休みの短縮によって非常にそれが組みにくい、回数が減る。この改善を図るためには、授業数確保と併せてどうすべきかというところから生じたのがこの土曜授業の開始だったのです。

ただ、それ以前にインフルエンザが流行したときに、授業時数が足りないということで、一部の校長から土曜日の授業開始ができないか、土曜授業を認められないか。これは学校の管理運営規則を変えない限り不可能なわけですから、ある意味その柔軟な動きから始まって、夏休み短縮問題、そして例の東京都の方針といったものが全部絡まって、土曜授業は始まったという経緯があるわけです。

その経緯のもとで土曜授業を行ってきたわけですから、今現在の時点では、やっぱり行うべきではないというのが妥当な考えだと私は思います。特にこれを廃止する、廃止しないという問題ではないだろうと。

ただ、土曜授業が8回でいいのかどうかとかいったものがこの裏側にあるとするならば、それはここで検証すべきだろうと思うわけなのですが、今この時点では、二学期制、三学期制の問題のほうがウエートが大きいだろうと思います。それに附属して土曜授業もまた絡んでくるだろうということもあるので、私は土曜授業はこのままで進めるべきというのが意見です。

【委員長】 何かメリットについてはありますか。

【委員】 これに関するメリットは、本当に保護者が土曜日にたくさんお見えになって、学校の様子をご覧いただけるというのは非常にメリットです。

あとはやっぱり授業を確保しているのです、基本的に。土曜授業をやることによって授業時数が確保されているというメリットはあると思います。

【委員長】 他の方、いかがでしょうか。

【委員】 もう決まっています、第2土曜日で、それも給食は食べてはいけませんという縛りがあるのですが、それはなくしてもらって、学校で年に何回以上土曜授業はやりなさいとか、何時間以上やりなさいという感じにさせていただけると、もっと年間指導計画とか年間行事がとても立てやすいと思っています。せっかく学校に来たのだから給食を食べて5時間目までとか、4時間目まででもいいのですが、ちょっとゆっくりした子供たちの触れ合いの時間がもてるといいというのは教員からも出ています。

それで、さっき杉並区の一部で2校だけ二学期制をやっているというところがあって、杉並区は、地域の特性に合わせて、お祭りとかを考えながら土曜授業をしたりとか、この地域だったら二学期制がいいとかを決めているので、みんな同じというのではなくて、特に練馬は広いので、その地域に合ったプログラムが組めるような、少し柔軟な対応でもいいと思います。

【委員長】 いかがでしょうか。

はい、お願いします。

【委員】 このアンケートからもあるように、本校でもやはり保護者の方が多く見られるのは、大変にいいことだなと思っています。

それから、土曜授業をやることで、月曜日の休みが大変に多くなってきていて、中学校の場合は固定した時間割なので、月曜日の授業がそっくり休みになるとなくなっていくという、ここをどうするかというところで、土曜日に相殺できることがメリットとしてあると思うのです。

ただし、先ほどもお話にありましたが、そのときに3時間という縛りがあるものですから、午後までやらせてもらったほうが、授業の確保は、その曜日ごとでのバランスを調整できる日になっているところで、大変ありがたい土曜授業だと私は個人的に思っているところです。

また、おそらく、8回に決めて、第2土曜日に決めたというのは、中学校の部活動の大会の関係から、それぞれがばらばらにやると大会が組めなくなってしまう、この曜日はう

ちは出られませんとなってしまうという配慮があって、多分第2土曜日に固定したのかと思っております。

以上です。

【委員長】 固定することのメリットがそこにあるということですね。

【委員】 はい。

【委員長】 ほかにいかがでしょうか。

【委員】 土曜日、今、3時間ですよ。給食を出さない形でやっていますけれども、これは何かというと、給食の委託化もありますけれども、給食の職員については、土曜日に給食をやるとほかの日に休ませなければいけないのです。そうすると、人的な部分ですとか勤務状況の関係もあって、それだけじゃないのですけれども、一応そういった部分もあります。4時間でやるなり、あるいは振り替えが必要になるとなると、先生たちはかなり長いスパンで振り替えができますけれども、区費職員はそんなに長く振り替えができませんので、そういったことの兼ね合いもあって、一応3時間でやっているというのが確か現実ではないかと思えます。4時間なり、給食を出すとかいうことになれば、その部分を含めてかなり検討はしなければいけない状況が出てくると思ってございます。

【委員長】 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

【委員】 私、個人的意見で言えば、いいのか悪いのかといたら、いいと思います。それは、先生方がおっしゃるように、結果として授業時数の確保ができたり、非常に保護者の公開授業の参加が頻繁になってきたということもあると思うのです。

なおかつ、付け加えて、保護者の立場、PTAの立場として言わせていただきますと、昨今はなかなかPTAの役員のなり手がいない。これはどこでも共通だと思うのです。特に、男性PTA会長の学校ですと、なかなかサラリーマンの方がPTA会長になるのは難しい状況があるのです。そこで、土曜授業がありますと、PTA活動を土曜日に移せるということで、サラリーマンのお父さんの役員のなり手が出てくるということも実際あります。

私の学校も、実はPTAの実行委員会を土曜日に移行してみたりということをしなが、男性の方にも出るきっかけ、あるいはお声かけをすることも考えて、非常にそれはいいだろうと思っています。

ただ、先ほど委員長からもあったように、スクールゾーン化ですね。これは前回もお話

しさせていただきましたが、やはり子供の安心・安全が担保されて、初めてこういったメリットになると思っておりますので、ここについてはぜひとも、プロセスはどういう形がいいのか分かりませんが、スクールゾーン化を実施していただきたいというのが特に保護者の立場としての意見でございます。

【委員長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。土曜授業の現在8回という問題、これは回数を増やすと先生方の負担になっていくでしょうし、回数を減らすと保護者のほうはもっとということにもなると思いますので、なかなか議論しにくいところかとは思っています。こういったことも含めて何か、いろんな角度からご意見をもう少し出していただけるといいと思うのですけれども。

大体、今出ているようなご意見でよろしいでしょうか。さらに二学期制、あるいは長期休業を含めて、全般的にでももし何かあれば。まだ時間が若干ありますので。

【委員】 先ほど、二学期制、三学期制の世の中のいろいろな学校の状況というお話がございましたが、全国的に見ますと、二学期制を新たに取り入れている自治体は今ほとんどない状況でございます。逆に、二学期制から三学期制に戻している自治体が非常に増えてきている状況でございます。

全国の数字で申し上げますと、平成23年度なのですが、小学校では三学期制を採用しているのが78%、中学校でも77.6%。これが平成23年度のデータです。東京都を見ますと、東京都では、三学期制を実施しているのが、小学校が73.6%、中学校が72.3%となっております。

先ほど、事務局からも説明がありましたとおり、区部ではまだ、23区の中では二学期制から三学期制に戻したところはないというところで、今、練馬区が検証委員会を開いてやっている状況です。市部では幾つかの市がやはり二学期制をやったのですが、なかなか課題も多く、三学期制に戻したという市が幾つかございます。

今後の方向性ですが、先ほど委員からお話ございましたが、やはりメリット・デメリットそれぞれあると思いますので、どちらかに絞って、どういった形で今後の学期制を見据えていったらいいのか、いろいろなご意見をいただいて、そうしたご意見をまとめていただけたらと思っております。

【委員長】 ありがとうございます。

皆さんの方からはよろしいですか。

それでは、今日、今後の方向性も含めていろいろご意見をいただきまして、前回よりも

新しいご意見等が出たように思います。私の方から復唱はしません。後ほど議事録で出てくるとしますので、またご覧いただくということで、終わりにちょっと、次回、最後のまとめになるかと思えます。事務局から提案があるかと思えますが、それに向けて、皆さんの方でも、今日出たような幾つかの論点について少しお考えをおいていただければいいかと思えます。

私なりにちょっとお話をさせていただくと、このメリットである「学びの連続性」ということについては、取組が必ずしも十分ではないのではないというあたりが気になる場所です。その辺、どうでしょうか。

それから、学習活動の評価の充実という点では、スパンを長くすることは、どちらかといえば、思考・判断・表現の、あるいは態度の評価に効果があるだろうという気がします。三学期制でスパンを短くすると、どうしても短い期間になれば知識・理解の評価のほうにウエイトが大きくなるかなということが考えられると思えます。その辺のところを、今後どういうふうにしていくか。

それから、子供と向き合う時間については、長期のスパンの方が時間が十分にとれる、十分ではないでしょうかね、よりとれているという状況があるようです。その辺のメリットをどうするかということ。

あとは、やっぱり小学校と中学校の違いをどう考えていけばよいか。違うということも考えられるんじゃないかというご意見も出ていましたけど、どうしていけばよいか。

それから、二学期制の趣旨だとか、今申し上げた三つのねらい等の趣旨の理解が十分に徹底されていない。5年、6年経っているけれども、まだというあたりを今後どういうふうに深めていくか、広げていくかという問題があると思えます。

それからもう一つは、三学期制に例えば戻すとしても、6、7年前の三学期制とはおそらく違うだろうという気がするのです。先ほどスパンの話があったように、これから数年後に戻すとするにしても、来年、再来年ではない数年先となれば、初めのときからさらに10年以上経つわけですから、当然次の教育課程の改訂を見据えないといけないだろうと。じゃ、次の教育課程の改訂がどういう方向でどういう内容か、イノベーションということが盛んに言われますから、出てくるのかというあたりも踏まえていくことも必要かなと受けとめています。

そんなことで、土曜授業も含めて、今日皆さんからいただいた案をもとに、次回、事務局である程度の方向性を示してくださるとは思えますので、私の方で今申し上げた論点を

もう一度お考えいただいてご検討していただければありがたいと思います。

【委員長】 それでは、以上で閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

— 了 —